

日本とアメリカのポイズン・ピルの現在

The Poison Pill: Still Relevant After All These Years

日本の最高裁でいわゆるポイズン・ピル（差別行使条件付新株予約権）が問題となったブルドックソース事件から15年余りが経過し、ポイズン・ピルの問題はもう日本では起きないのではないかと考えられていたところ、2021年の日邦産業事件、日本アジアグループ事件、富士興産事件、東京機械製作所事件、そして2022年の三ツ星事件と、近時、また新たに買収防衛策の適法性を巡る裁判が出されるようになってきました。

そこで、2023年現在における日本とアメリカのポイズン・ピルを巡る法的問題をスタンフォード大学から日本会社法にも造詣の深いカーティス・ミルハウプト教授、そしてコロンビア大学からBoard 3.0でも著名なジェフェリー・ゴードン教授をお招きしてシンポジウムを行います。

日時：2023年7月8日（土） 13:00～18:40

会場：一橋大学一橋講堂（千代田）2階中会議室第1・2（千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター）
最寄駅：竹橋駅 or 神保町駅

参加：無料（事前登録必須） 定員：対面式100名 + オンライン

申込URL: <https://forms.gle/664wrJSXM7d3S1ER6>

主催：一橋大学大学院法学研究科ビジネスロー専攻（担当：得津 晶）

後援：TMI総合法律事務所 言語：英語（日本語同時通訳あり）



PROGRAM

13:00-13:15	Opening Remarks 宍戸 善一（武蔵野大学法学部 教授・一橋大学 名誉教授）
13:15-14:15	Session 1 “The Enduring Relevance of the Poison Pill: A US-Japan Comparative Analysis” 報告：カーティス・ミルハウプト（スタンフォード大学 教授） コメンテーター：後藤 元（東京大学大学院法学政治学研究科 教授）
14:15-15:15	Session 2 “Code of Conduct, Norms, Duties, Etc. of Directors of a Target, Listed Company in a Competitive Situation of Tender Offers” 報告：岩倉 正和 （TMI総合法律事務所 弁護士・一橋大学大学院法学研究科ビジネスロー専攻客員教授） コメンテーター：得津 晶（一橋大学大学院法学研究科ビジネスロー専攻教授）
15:15-15:45	Break
15:45-16:45	Session 3 “Developments in Anti-Activist Pills and Advanced Notice Bylaws in the US” 報告：ジェフェリー・ゴードン（コロンビア大学 教授） コメンテーター：飯田 秀総（東京大学大学院法学政治学研究科 教授）
16:45-17:00	Break
17:00-18:00	Panel Discussion 宍戸（司会）、ミルハウプト、ゴードン、岩倉、 田中 亘（東京大学社会科学研究所 教授）、星 明男（学習院大学国際社会科学部 准教授）、 松中 学（名古屋大学大学院法学研究科 教授）
18:00-18:30	Panel Discussion—Q&A
18:30-18:40	Concluding Remarks

登録締切：2023年7月1日（土）



TMI総合法律事務所